

環境に関する取り組み

Assess:自然に関するリスクと機会の評価

リスクと機会の洗い出しにおいては、TNFDのガイダンスを参考にシナリオ分析を行いました。シナリオ策定にあたっては、市場と非市場の一貫性(移行リスク)、生態系サービスの低下(物理リスク)の度合いに基づき4つのシナリオに分けて分析しました。

右記の中で最も実現可能性が高いと考えられる「シナリオ2」を想定し、Locateで特定した優先地域とEvaluateで特定、評価した自然への依存度と影響度の調査結果を踏まえ、当社のリスクと機会の時間軸の定義※1を考慮し、当社にとって重要と思われる自然資本に関するリスク及び機会を特定しました。さらに、特定したリスクや機会への対応策を、当社の事業内容、事業地域、バリューチェーンを考慮して検討しました。

※1:短期(3年未満)、中期(3年を超え10年先まで)、長期(10年を超え30年先まで)と定義している。

■ 自然に関するリスクと機会のまとめ

リスク／機会	対象領域	依存と影響の重要な項目	リスク／機会の種類		発生時期	リスク／機会要素	対応策
リスク	上流	自然関連の規制の強化	移行リスク	市場・技術	中・長期	原燃料生産地域における環境規制の強化により調達コストが上昇する	サプライヤーエンゲージメントを強化し サプライヤーと対応策を講じる
		水ストレス、洪水	物理リスク	慢性	中・長期	原材料生産地域における水課題起因による供給の不安定さ	調達地域及びサプライヤーの多元化により 調達リスクを軽減させる
		温室効果ガスの排出	移行リスク	市場・技術	中・長期	生産活動起因のCO ₂ の量が減らせない場合、炭素税や排出権に関わるコストが増加する	生産性の改善、再エネの利活用や脱炭素設備の導入などによりCO ₂ 排出量を削減させる
	直接操業	固形廃棄物の発生と放出	移行リスク	評判	長期	固形廃棄物縮減・循環経済に対する自治体・市民からの声が高まり、廃棄物処理費用が上昇する	生産性の改善、リサイクルの促進などで 固形廃棄物を減らす
		水の供給	物理リスク	慢性	中・長期	生産に必要な水が確保できないことにより製品の製造が制限される	水原単位の把握 水の効率的な利用を進め水使用量を削減する 貯水量の確保や水源の多元化により 安定的に水を確保する
		洪水や暴風雨	物理リスク	急性	中・長期	主要生産拠点において災害対策コストが発生する	災害に備え普段から設備と緊急資材の補強を行う 対応手順の標準化と教育・訓練を行う
		洪水や暴風雨	物理リスク	慢性	長期	洪水により操業が停止あるいは生産量が減り売上げが減少、また製造設備に対する減損損失が発生する	災害に備え普段から設備の補強を行う
		水質浄化	物理リスク	慢性	長期	取水の水質が悪化することによる製品品質の低下や、水質を浄化するためのコストが発生する	貯水量の確保、行政機関との協議
機会	上流	カーボンニュートラル	移行機会	市場・技術	中・長期	原燃料サプライヤーにおける脱炭素化により環境規制をクリアする	サプライヤーの製造拠点における再エネの利活用
	直接操業	脱炭素関連製品の開発・普及	移行機会	市場・技術	中・長期	脱炭素化市場の拡大に伴い、当社の環境貢献製品の売上げが増加し収益が向上する	環境貢献製品の開発・販売促進、 プロセスの改良、リサイクルの促進
		カーボンニュートラル	移行機会	市場・技術	短・中期	カーボンニュートラルへの取り組みがステークホルダーから評価され、市場での価値が向上する	再エネの利活用や工程改良などにより 当社製品に係るCO ₂ 排出量を低減する

指標と目標2.自然資本

Prepare:対応と報告の準備

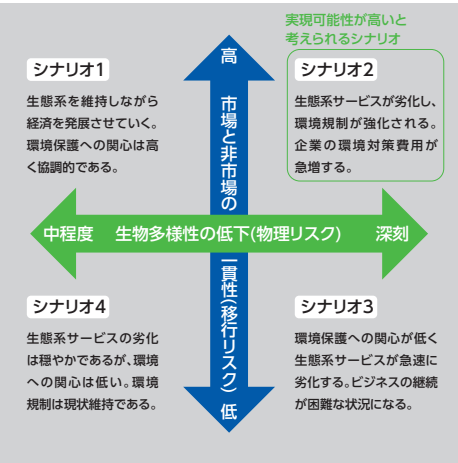
特定したリスク／機会の解析結果を踏まえ、さらに当社の中長期戦略を考慮して最も重要と思われる自然資本に関する指標と目標を選定しました。これらの課題に対してはマテリアリティに特定しKPIを掲げて取り組んでいます。社内リソースを適正に分配しながらKPIの達成を目指します。

■ 自然資本に関する指標と目標

項目	指標	目標	2023年度実績
GHG排出量	Scope1,2	2030年度のGHG排出量を2020年度比で23%削減する	20.2%
環境貢献製品対売上高比率	環境貢献製品として社内認定した製品の売上げ	2024年度の環境貢献製品対売上高比率を12%以上とする	10.3%

その他の指標については、TNFDグローバル中核開示指標を参考に、今後開示を行うとともに、環境負荷の低減を図っていきます。

■ TNFDシナリオ分析



■ 依存と影響に関するグローバル中核開示指標

依存・影響の指標		範囲	単位	2022年	2023年
GHG排出量 (Scope1+2)		単体	t-CO ₂ e	60,319	50,545
土壌汚染物質 (PRTR対象物質)		単体	トン	0	0
水質汚染	排水量	単体	千m ³	1,629	1,712
	COD	単体	トン	5.6	7.1
	全リン	単体	トン	3.4	3.2
	全窒素	単体	トン	13.3	14.6
	PRTR対象物質	単体	トン	0.066	0.056
廃棄物	産業廃棄物総排出量	単体	トン	9,056	11,732
	特別管理産業廃棄物総排出量	単体	トン	4,193	6,141
	焼却処分	単体	トン	3,384	5,157
	埋立処分	単体	トン	757	1,719
	その他の処分方法	単体	トン	1,581	1,654
	処分方法不明	単体	トン	0	0
	リサイクル量	単体	トン	3,322	3,290
	揮発性有機化合物 (VOC)	単体	トン	データ無し	データ無し
大気汚染	NOx	単体	トン	10.8	11.5
	SOx	単体	トン	0.9	1.2
	ばいじん	単体	トン	2.5	2.5
	PRTR対象物質	単体	トン	4.2	1.7
コンプライアンス違反		単体	件	0	0
製造過程における有害廃棄物のリサイクル		単体	%	0.468%	0%
使用済み有害廃棄物のリサイクル		単体	%	36.2%	27.8%

今後もTNFDフレームワークを参考に当社の気候変動、自然資本に関する積極的な情報開示を行っていきます。また、ステークホルダーの皆様との対話を通じてサステナビリティ活動の改善・推進を図り、持続可能な社会の実現を目指していきます。

具体的な取り組み

森林保全活動

徳山工場では、1997年より周南地区で行われている「まちと森と水の交流会」(森林保全活動)に毎年参加し、この活動を通して森林の持つ水源かん養機能や地球温暖化防止機能について学んでいます。今後も地域社会の一員として森林保全活動を推進し、生態系の維持に努めてまいります。



森林保全活動(徳山工場)



まちと森と水の交流会(徳山工場)

地域の環境保全活動

当社では、事業所近隣の市街清掃および海岸やダム周辺の清掃を行っています。



工場周辺の清掃活動(福島第一工場)



さくらの里クリーンアップ作戦(福島第二工場)



水辺クリーンアップ大作戦(愛知工場)



本社周辺の清掃活動(本社・研究)